

地域で支えあうところと命の事業  
自殺予防ネットワーク講演会  
(11月14日(日) スマイル)



清水康之 氏

NHK在局時代、自死遺族への取材を契機に自殺問題に関わる。平成16年、同局を退職し「NP O法人自殺対策支援センター ライフリンク」を設立、代表を務め自殺対策基本法制定に奔走。内閣府参与(「自殺対策タスクフォース」事務局長代理)

◆生きる支援の総合サイト  
<http://www.lifelink-db.org>

ライフリンクDB

日本では、平成10年以降、毎年3万人を超える人が自ら命を絶っています。この水準は異常事態です。個人的な問題の積み重なりではない。社会全体の問題です。

私がNHK在局時代に関わった自死遺族の子どもたちは、深い悲しみと自責を抱えながら、足を一歩踏み出して、その体験と思いを出版しました。悪循環に陥った、この社会を変えるために行動したのです。

やさしさにあふれた、生き心地の良い社会をめざしましょう。  
(講演内容を要約)

「昨年の自殺者数は3万人。前年と比べ2千人減りました」と報道される時があります。しかし、実際には2千人が減ったのではなく、3万人が新たに亡くなったということです。数値データのみに捉えてしまうと、一人ひとりに、それぞれの人生があったことが見えなくなる。その人の面影が消えてしまう。



「地の良い社会をめざして」

することがタブー視され、実態を知られることが少なかった。多くの人が「自分には関係がない」と考える原因です。

自死に至るまでには、複数の段階があるとされています。原因もさまざま、対策もまた、それだけ必要になります。ハローワークで昨年試行的に実施したワンストップサービスは、雇用だけでなく、こころの健康、多重債務など、複数の要因に対応した対策の一つです。

「居場所をつくる」

精神保健福祉ボランティア

ほたるの会

【会長 大場禮子さん】

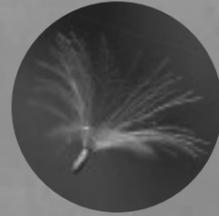
ホテルのようなやさやかな灯りでも、みんなが集まると大きな灯りに……。その灯りで、いろんな方をあたたく支えたい、我々はそんな集まりです。

話を聴く。おもいを聴く。居場所をつくる。解決のため関係機関へ紹介する。私たちにできることは、それだけです。

人は一人で生まれ一人で死んでいく。その覚悟は皆に必要ですが、しかし残された者には深い悲しみと苦しみが続きます。それは、人は必ず、人とつながっているから……。

心が痛むこと、命そのものの重さを感じるがあります。防げなかったことがあります。それでも、私たちは活動を地道に、長く続けていきます。  
(広報インタビューを要約)

ほたるの会の「コーヒーサロン」、市の精神保健事業「こころの相談」「精神保健相談」は10ページの福祉・健康欄をご覧ください。



まっとうする



いのち

感じる



支え合う



やさしさに包む



本ページ内の画像はすべてイメージです。